

美保野中の環境教育

1 はじめに

本校の学校経営の最も基本となるのは、開拓記念碑にある建学の精神ともなった『墾即魂』という考え方である。『墾即魂』というのは、「土地を耕すことは、心や頭を耕す」ということであり、この考え方にに基づき、学校創立以来、学校農園での勤労体験学習に取り組んできた。

2 指導の実際

(1) ねらい

作物の栽培を通して、美保野の歴史と先人の苦労を実感すると同時に『墾即魂』の精神を身につけ、自分達が住む地域の環境を守ろうとする態度を養う。

(2) 指導過程（「拓魂タイム」と命名した総合的な学習の時間に指導）

- ① オリエンテーション（4月）
- ② 栽培作物の検討と決定（5月）
- ③ 学校農園の開墾と畝作り（5月）
- ④ 植え付け・種まき（6月）
- ⑤ 水やりや草取り（6月～9月）
- ⑥ 収穫（10月）
- ⑦ 収穫祭（11月）
- ⑧ 反省とまとめ（12月）



学校農園（植え付け作業）

3 成 果

(1) 生徒が地域に目を向けるきっかけとなった。その結果、自分なりの課題を見つけ、その解決に工夫して取り組めるようになった。特に、地域に棄てられたり放置されているゴミについての関心が増大し、年2回小学校と合同で実施しているゴミゼロ運動にもつながった。

(2) 学校農園における農作業を体験することにより、「命の尊さ」「働くことの意義」「感謝の気持ち」を実感できることができ、道徳や進路指導にも関連を図ることができた。

(3) 学校農園で栽培した農作物を調理し、地域や保護者にふるまう収穫祭を通して、家庭や地域社会との連携を図った活動ができ、「開かれた学校づくり」の一助となった。

4 おわりに

学校農園での勤労体験学習で学んだことは、ゴミゼロ運動や食育等に生かされているが、今後は、さらに地域だけでなく、もっと大きな規模に視野を広げさせ、グローバルななかで環境問題の解決に向けた行動力を身につけさせたい。また、学校として、各教科に関連づけた指導計画の作成と地域の人材等を活用した指導を今後考えていきたい。



収穫祭（調理の様子）



小中合同ゴミゼロ運動